



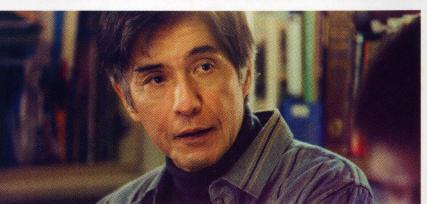
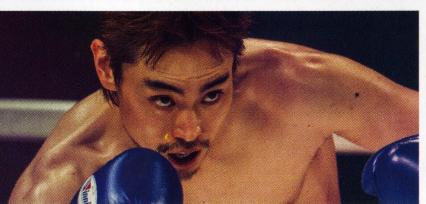
あなたが生きた“存在”は、消えない。

イントロダクション INTRODUCTION

2000年3月8日に発生した地下鉄脱線事故により、
当時高校生だった富久信介さんが犠牲となりました。
2020年——。一通のラブレターが信介さんのご家族の元に届きました。
その手紙は、毎朝、信介さんと同じ時間、同じ車両で通学し、
彼に密かな想いを寄せていたという女性から送られてきたものでした。
ご家族も知らなかった信介さんの姿がそこには綴られており、
20年越しで彼の成長を目の当たりにしたのです。
人の想いが色褪せる事は無い。この奇跡のような実話を元に、
信介さんのご家族や関係者のご協力を得て、映画化されました。

ストーリー STORY

寺田ナズナ（綾瀬はるか）は、とある青年に手紙を書きはじめる。
——24年前、17歳のナズナ（當真あみ）は、いつも同じ電車で見かける高校生・富久信介（細田佳央太）にひそかな想いを抱いていた。一方、信介は学校帰りにボクシングに夢中な生活を送り、プロボクサーを目指していた。そんな彼らに、運命の日、2000年3月8日が訪れる。
——2024年、ナズナからの手紙を受け取った信介の父・隆治（佐藤浩市）。その手紙の中に亡くなった息子の生きた証を確かに感じ、知りえなかった信介の在りし日が明らかになっていく。そして、隆治はナズナに宛てた手紙を綴りはじめる。愛する者を亡くして生き続けた隆治とナズナとの邂逅により、24年前の真実とナズナが手紙を書いた理由が明らかになる。
人はなぜラブレターを書くのか——その手紙が“奇跡”を起こす。



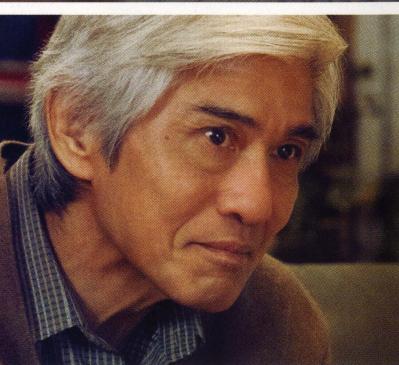
4.17
Fri.
Roadshow



全ては“愛の実話”から始まつた——
24年の時を超える、
一通の手紙が奇跡を起こす。



4.17 Fri.
Roadshow



1通のラブレターが、彼女たちの運命を動かした——それぞれの想い。

綾瀬はるか Haruka Ayase

脚本を読んだ時に涙が止まらなくて、心が揺さぶられました。

生きたい、もっと見てたい、家族を愛して、家族に愛されて、生きてきた証のような思いの中で、

初恋の人に24年越しのラブレターを書いたのかもしれません。

ナズナのラブレターに秘められた物語を是非観て頂きたいです。

細田佳央太 Kanata Hosoda

石井監督ともう一度ご一緒することを目標にしていたので、自ずと気合が入りました。ボクシング練習には約4ヶ月という準備期間をいただいて、ボクシング未経験の僕に、松浦さんをはじめとした多くの方々が指導してくださいました。素敵過ぎるスタッフ・キャストの皆様に囲まれた撮影の日々は、映画と芝居にもう一段と深くのめり込むきっかけとなり、撮影の内外問わず役と同様に温かい距離間を保ち続けてくださった菅田さんには感謝してもしきれません。この作品が持つ記憶と、そこに生きた人々の熱が、現代に生きる皆様と未来に届くことを願ってやみません。

菅田将暉 Masaki Suda

第17代WBC世界スーパーフライ級チャンピオン川嶋勝重選手。を演じる?即お断りしようと思いました。が、台本を読むと、早すぎる命と対話する真摯な青年の姿がありました。夢について語り合い、想いを背負って闘う。今日のために生きる。今自分に必要な作品だったのか、使命感のようなものが湧いてきて、初の石井組に挑みました。ハードな撮影でしたが、一生に一度の経験をさせてもらいました。思いやりと少しシャイなところがこの映画の好きなところです。是非、観に来てください。

佐藤浩市 Koichi Sato

突然の別れと、覚悟を持って向き合う別れ。

どちらにしても後悔なく大切な人を見送ることの出来る方はごく僅か…。

しかしその想いが、より深く故人との歴史を刻んでくれると信じたい。



當真あみ Ami Touma

脚本を読んで、初めてこの出来事が実際にあった事なのだと知りました。

友人と過ごしたり、何かに熱中したり、恋をしたりと当たり前に思っていた日常を、しっかりと見つめて大切にしたいと感じました。

綾瀬さんが演じるナズナと、どう繋げられたらいいかを監督と話しながら、

ナズナが経験し積み重ねた感情を作っていくように演じました。

この作品を沢山の方に見ていただきたいです。映画を見た時、きっと自分の日常が愛おしく大切に思えるはずです。

妻夫木聰 Satoshi Tsumabuki

様々なテーマで挑戦し続ける石井監督の作品に呼んでもらえることはとても光栄なことです。

そして、自分にとっても新しい一面を見せられるようにと身が引き締まる思いでしたが、少しずつほどけていく家族の形を、一目一日確かめながら撮影する日々は、どうしようなく不器用で、素直になれないけど、それがとても愛おしい時間でした。過去を生きる人、今を生きる人、みんなの想いが溢れている。

悲しみさえも糧にして、前を向き、それぞれが夢に向かって踏み出していく様に涙が止まりませんでした。

一つのラブレターによって、止まっていた時間が動きだしていく。悲しいことも、嬉しいことも、みんな手を繋いで生きていけば良いよねって思ってくれる、そんな素敵な映画です。是非劇場をご覧ください。

監督・脚本・編集：石井裕也

企画・プロデューサー：北島直明 プロデューサー：菊地美世志 宮崎慎也 音楽：岩代太郎

製作：桑原勇蔵 菅井敦 市川南 柿本幸一 植田泰生 高橋紀行 菊地美世志 芦田拓真 製作統括：江成真二 エグゼクティブプロデューサー：飯沼伸之

映画「人はなぜラブレターを書くのか」製作委員会：

日本テレビ放送網 ホリプロ 東宝 読売テレビ放送 パップ KDDI ジェイアール東日本企画 フィルムメイカーズ LINEヤフー/STV・MMT・SDT・CTV・HTV・FBS

製作幹事：日本テレビ放送網 制作プロダクション：フィルムメイカーズ 配給：東宝

撮影：鎌苅洋一 黒明・永田ひでり 録音：小松将人 美術：渡辺大智 装飾：林杏奈 大和昌樹

特機：石塚新 編集：早野亮 衣裳：立花文乃 ヘアメイク：豊川京子 ヘアメイク（綾瀬はるか）：栗原里美 VFXプロデューサー：赤羽智史 音響効果：大塚智子

ボクシング指導：松浦慎一郎 助監督：成瀬朋一 制作担当：宮下直也

協力：大橋ボクシングジム

© 2026映画「人はなぜラブレターを書くのか」製作委員会 ①TOHO ④

loveletter.toho-movie.jp